

火山活動と十勝平野

十勝平野の基盤は、約 1300 万年前にユーラシアプレートと北アメリカプレートが衝突して日高山脈が形成された時に出来たものです。その後、火山活動やその他の地質学的プロセスを経て、何百年もかけて、現在の形になっていきました。

巨大火山が噴火

約 100 万年前、現在の大雪山国立公園の北部、鹿追北部で巨大な噴火が起きました。この時の噴火で火砕流が発生し、密度が高く高速で流れる溶岩片の塊、火山灰、熱ガスが発生しました。これにより、十勝地域より南方へ噴火堆積物が運ばれました。この時の大量の堆積物と、北海道各地の他の噴火により、のちに十勝平野となる湿地帯が形成されました。

規模を示すもの

噴火の規模は、ポンペイを飲み込んだベスビオ火山の 100 倍で、この時の堆積物の総量は、現在の北海道を厚さ 1 メートルの灰と岩の破片で埋め尽くす程のものでした。地殻変動による噴火は、十勝地域の形を変え、噴火跡地には 10×14 キロの巨大なカルデラを残しました。カルデラは、火山から噴出したマグマの火砕流が流れきった噴火後に形成されました。火山から溶岩が流れ出る過程で、マグマだまりは空になりました。その後、山頂が崩壊し、真下にあった空になったマグマだまりは潰れました。巨大なカルデラが、当時の噴火の規模を物語っています。

火砕流

火砕流は、時速 100 キロ近くもの速さで長距離にわたって火山堆積物を運ぶことができ、その温度は 1,000℃にも達することがあります。然別川は、十勝三股カルデラから 45 キロのところにある鹿追の西ウリマク地区の火砕流堆積物を露出させています。ここの露出は高さ 30 メートルで、十勝地区へ流れ込んできた堆積物の多さを物語っています。